

2015年
12月4日
金曜日

「タイムトラベル」をすることは本当に可能なのだろうか。いつの日か、人間が過去へと時間を遡ったり、未来の世界を覗きに行くようなことが可能になるのだろうか。その実現性の可否は別として、「タイムトラベル」は多くの人の心を惹きつけてきた。物理学者が未来への旅の可能性について言及し、多くの物語——小説や児童文学、さらにはアニメやコンピュータゲームにおいても時間旅行が描かれてきたのである。映画製作者にとっても、また、映画を観る者にとっても、「タイムトラベル」という設定は、かなり魅力があるようで、主人公が時空を行き来する映画が数多く作られてきた。

『ターミネーター』や『バック・トゥ・ザ・フューチャー』といった、大がかりな仕掛けのSF作品だけではなく、『ある日どこかで』や『ニューヨークの恋人』など、時間を旅するという設定ならではの、切ない、ロマンティックな作品も多い。本当に、何故、人はこれほど、時間の流れを行き来すること、特に、過去に戻ることに惹かれるのだろうか。「タイムトラベルなど絶対あり得ない」という思い故に、時間旅行を夢見るのだろうか。あるいは、「過去を変えることによって、自分が今置かれている状況を変えたらい」、「もしあの時違う道を選んだら……過去をやり直すことができたら」と願うからなのかもしれない。リチャード・カーティス監督の引退作品と言われる映画『アバウト・タイム』は、その願望を叶える力を主人公に与えている。主人公のタイムは、ある日、「代々、我が家の男はタイムトラベルの能力を持ち、自分の過去に自由に戻ることが

森田 由利子 教授（イギリス小説、ライフ・ライティング）

『アバウト・タイム』 —過去は変えらられるのか

できる」と父親から告げられる。そして、彼はその力を使って何度も過去に戻り、悔やまれる自分の言動や選択をやり直し、恋を成就させるのである。言うまでもなく、過去は現在と緊密に絡み合っている。過去の積み重ねの上に、あるいは、過去から繋がる線上に現在が成り立っていると考える。なので、現在を変えたいならば、過去を変えれば良いということになる。では、過去を変えるには、映画の中で実際にタイムがしたように、タイムトラベルで過ぎ去った時間へと戻り、もう一度やり直すしかないのだろうか。もしそうだとしたら、現実の世界では時間を巻き戻すことなどできない以上、われわれは「過去を変えることができない」ということになる。確かに、過去の事実を変えることは不可能だろう。だ

が、少なくとも過去に起こった事柄の意味や意義は変えられる、と私は思うのである。過去が現在に色濃く影響を与えているように、現在もまた、過去に強く作用するのではないだろうか。つまり、現在を懸命に生きることによって、過去の失敗や挫折といった経験さえも変容する場合がある。「あの時の辛い経験のお陰で今がある」と語るのには、概して成功した人物に多いことは認めざるを得ないが、過去を受けとめ、信念を持って現在を生きる——その現在には、過去に対する認識を変え、そしてもちろん、未来をも大きく変えることになる。『アバウト・タイム』は、「主人公が自在に過去へと戻れる」という設定にも関わらず、現在を生きることの大切さを示唆してくれる映画なのである。■